

知ってる？身近なだるまの新たな発見

高崎だるまの

よもやま話



高崎市は全国有数の張り子だるまの生産地です。高崎のだるまの製造は200年ほど前から始まりました。今回は、だるま研究者、だるま職人、だるまを使った商品デザインを行う学生をお迎えし、高崎だるま®の歴史について考えます。



◀明治期のだるまの木型。右の型の黒ずみは紙をはがしやすくするために塗られた柿渋によるもの

高崎だるまその始まり

市長 今度、正月の元旦と二日に、高崎駅西口正面の通りでだるま市を開催することにになりました。私は皆さんと協力して、新しい高崎だるまの伝統を作っていきたいと思っています。峯岸さん、そもそも高崎でだるまが作られ始めたのはいつからですか？

峯岸 安中市に作り始めた人の子孫がいて、その系図から追っていくと1700年代の終わり、寛政年間になると思います。上豊岡町に住んでいた山縣友五郎という人が作り始めたんです。

市長 目的は何だったんでしょうか？

峯岸 元々は江戸だるまの流れを受けた、疱瘡除けです。安政5年頃江戸に種痘所ができて怖い病気ではなくなると、江戸でのだるま作りは廃れていきました。その江戸で作り方を学んだ友五郎が、今度高崎で作り始めたんです。明治の頃には長野県など県外へも広く売りに出掛けて行ったんです。横浜の開港で生糸の輸出が盛んになると

「蚕大当たり」なんてだるまに文字を入れて売り出したんです。赤いだるまはネズミ除けになると、疱瘡除けがネズミ除けに替わりました。高崎のだるまは作る人と売る人が広めていったんです。全国でもこういう例は無いですね。

市長 その「作る人」である中田さん、全国でも高崎のだるまの生産量はどれくらいの割合を占めているんでしょうか？

中田 実は正確には分かりません。全国でも組合員数が70軒もあるところはありませんが、大多数は占めていると思います。

峯岸 各地5軒ずつくらいしか作っていないんですよ。福島県は三春、福島、白河で作っていますがそれぞれだるまは別の形です。高崎だるまの場合は、県内で全部同じものを作っているわけです。

だるまと高崎の発展と

市長 お店と市外で売れる数はどちらが多いんですか？

中田 県外のほうが格段に多いかもしれません。これまで



富岡賢治 市長

だるま市をまちなかで開催し「新たな高崎の伝統文化」として市内外に発信したいと考えている。



竹沢敦美 さん

雷舞フェスティバルでだるまグッズの作成に携わる。県立女子大学文学部美学美術史学科4年生。



中田純一 さん

群馬県達磨製造協同組合理事長。県認定のふるさと伝統工芸士。藤塚町でだるま店を営む。



峯岸勤次 さん

長年だるまを研究し、高崎だるまに関する書籍を発表。元全日本だるま研究会理事。豊岡町出身。

に一度の注文で18万個を受けたいことがあります。

市長 本当ですか？全国にもファンがたくさんいますね。

中田 昔は組合員数が多かったのですが、今は作り手の高齢化で生産数は減っています。質の良いものを目指さなければなりません。

峯岸 明治以前はおそらく和紙を使い、明治以降は新聞紙が発行されたので、書き損じた和紙と新聞紙を使った漉き返し紙「だるま紙」が使われるようになりました。厚くて丈夫だったんです。明治30年代くらいから急速にだるま作りが増え始めるんです。これは富岡製糸場の影響が大きいです。

市長 どういうことですか？

中田 横浜港の開港とインフラの整備で、シルクが輸出される。反対にスカーレットという赤の顔料が手に入るようになり、鉄道が存在が大きかったと思います。当時のだるまは、養蚕の繁栄にちなんだ繭玉の形をしていました。あとは新聞の発行です。だるま紙のもとになる新聞紙が簡単に手に入るようになったんです。

峯岸 横浜の開港で群馬の生糸が売れ、だるまも一緒に歴

史上に浮かび上がったわけですね。

市長 だるまは高崎の発展の歴史に深く関わっているんですね。

若いチカラで新たな魅力

市長 市外出身の竹沢さんは、だるまが高崎で作られているのは知っていましたか？

竹沢 はい。祖母の家に大きなだるまがあって小さいころから身近な存在でした。

市長 大学ではデザインを勉強されているそうですが、だるまは素材として面白い？

竹沢 小さいだるまやキーホルダーサイズのカバンに付けられるものとか種類も豊富で面白いと思います。

市長 いろんな色のだるまやトレンド的なデザインも出てきましたね。

竹沢 大学のゼミで、たかきき雷舞フェスティバルに関わらせてもらっています。これまで、だるまをデザインしたグッズを作りました。今年度は参加チームの衣装を着たダルマをデザインしたんです。ちょっと重みがある、手が出しにくい印象の伝統文化が、こうした機会で見事に感じられるようになりましたね。

高崎談図抄には田町の市でのだるま売りの様子が描かれている



市長 若い人たちがいろんな形で伝統文化に関わって、盛り上げてもらえるのはうれしなことですね。

歴史に刻まれたまちなかのだるま市

市長 作り手の皆さんは高崎のだるまの歴史をどのように考えているんですか？

中田 だるま屋に生まれても昔は売ることには専念していませんでした。歴史的な背景はあまり意識しませんでした。でも以前、伝統工芸という観点からいろいろな資料を探してみましたが、意外な発見もありました。その中で、今から190年前に、田町でだるまを売っていたという確か

な資料が見つかったんです。

峯岸 文政12年の高崎談図抄という本で、市の観音塚考古資料館に保存されています。その中に田町の初市の風景が描かれています。

市長 まちなかでだるま市を開催することは、私たちの先人が培ってきた歴史に立ち戻ったという感じがします。新春の一番最初に開かれるだるま市になりますが、皆が初詣の帰りに寄ってくれるようになればいいですね。高崎の新しい伝統文化を発信していきたいと思います。本日はありがとうございました。

三人 ありがとうございます。